

第57回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和元年7月18日(木)午後6時00分～午後7時25分

場 所 小金井市役所本庁舎第一会議室

出席委員 8人

委員長 日向 信 和 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 村 田 淳 委員

本 田 哲 朗 委員 鴨 下 明 子 委員

森 田 眞 希 委員 天 野 建 司 委員

欠席委員 4人

荒 城 眞 美 委員 中 村 彰 宏 委員

鹿子木 将 登 委員 加 藤 明 彦 委員

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課主査 東 條 俊 介

企画政策課主任 金 原 真紀子

傍 聴 者 0人

(午後6時00分開会)

◎日向委員長 皆さん、こんばんは。それでは第57回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

本日の委員の欠席の連絡についてですが、加藤委員から欠席の連絡が入っております。また、中村委員から出席が遅れるとの連絡をいただいております。鴨下委員、荒城委員、鹿子木委員は連絡はいただいておりますが、間もなくお見えになられると思われま。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することになってございますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。本日は第7期委員会の最後の開催となりますので、よろしく願いいたします。

それでは配付資料について、事務局から確認をお願いします。

◎梅原企画政策課長 それでは最初に資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、最初に次第です。それから、資料1「第7期小金井市市民参加推進会議提言」でございます。それから、資料2「市民参加条例第27条第1項の規定に基づく提言に対する市長の意見について」でございます。それから、資料3としまして「第8期市民参加推進会議の構成について」でござ

ざいます。また参考資料といたしまして、市長への提言の受け渡しについて、当日の内容をまとめたものを各委員席に配付しております。こちらは正式な資料ではございませんけれども、当日いらっしゃらなかった方もおられますので、概要をまとめたものを配付しております。

配付漏れ等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

資料については以上でございます。

◎日向委員長 それでは次第に沿いまして、次第2（1）「提言の受け渡しについて」を議題といたします。資料の説明を事務局よりお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 それでは資料1「第7期小金井市市民参加推進会議提言」を御覧いただきたいと思います。今期推進会議でまとめていただいた提言となります。先日、7月4日木曜日に参加可能な委員の皆様にお集まりいただきまして、委員長から直接、小金井市の西岡市長に提言書をお渡しいただきました。平日にもかかわらず御参集いただきました委員の皆様、誠にありがとうございました。

当日は日向委員長、渡邊副委員長、中村委員、森田委員、岡田委員、本田委員、それから市役所職員の天野委員、加藤委員の8人が出席され、事務局も同席させていただきました。

当日については以上でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。事務局の説明は終わりました。

当日、西岡市長に提言をお渡しし、市長からは「いただいた提言の内容を実践できるよう最大限努力させていただく」旨の発言をいただいております。

せっくなので、参加された委員の方から御感想など一言ずついただければと思います。

◎森田委員 どの委員会でもああいう場は設けられるんですか。

◎梅原企画政策課長 必ずあのような場があるということではないと思います。

◎森田委員 全部あったら大変ですものね。

◎天野委員 諮問するので、その答申をいただくみたいなことは結構やっているかとは思いますが、すけれども。

◎森田委員 そうですか。改まった場で、ああいった形でお出しして意見交換というのは初めてでしたので、勉強になりました。

◎岡田委員 私は全てが初めてなことで、市長さんというのが身近に感じることはほぼなかったんですけども、とても私たちに近い存在なのではないかということに改めて感じました。ただ受け取る、写真を撮るだけではなくて、前向きに考えてくださっているのがこちらに伝わったので、やりがいがあったなと思いました。

◎本田委員 行政のトップの方に会えるというのは、なかなかないんですけども、すごく距離が近くて正直驚きました。あと、市長さんが自分の言葉でしゃべられているのがすごく新鮮で、ちょっとうらやましいなと思ったりしました。

◎天野委員 皆さん本当にお疲れさまでした。市長も真摯に受けとめて、この間庁議という、部長職とか幹部の会議があるんですが、その中でも市民参加ワークショップを進めるという発

言もありました。私どもも、今第5次基本構想を策定しているんですけれども、ワークショップの手法を皆さんのアドバイスを受けながらやっているんで、この間褒められたりしまして、皆さんの意見を基にやらせていただきました。ありがとうございました。

◎日向委員長 せっかくなので事務局も。

◎梅原企画政策課長 御参加いただいた委員の皆様、本当にありがとうございました。あのような平日の時間帯ですし、たくさんお集まりいただけるとは思っていませんでしたので、そこがまず大変ありがたかったなと思いました。市長もそういったことを多分感じたんじゃないかと思ってまして、本当にざっくばらんな意見交換というか、とてもいい場が作れたなと思っておりまして、委員の皆様には感謝するばかりです。

◎東條企画政策課主査 皆さんありがとうございました。私も提言を渡すような場に出たのは初めてでしたので、非常に勉強になりました。あの場が終わった後にも、道端で市長とすれ違うたびに、ワークショップをやろうと言っていただけになりました。市長も元々ワークショップがお好きな部分があるんだと思うんですけれども、きちんと委員の皆様からの提言が届いたのかなと思っておりますし、事務局としてもよかったなと思っております。

◎金原企画政策課主任 皆さんありがとうございました。私も同じく答申であるとか提言の場に立ち会ったのが初めてでしたので、こういう感じなんだと思って勉強させていただきました。また、渡し終わった後の意見をこういう場で聞かせていただく機会もあまりないんじゃないかという気がしまして、直接お渡しいただいて、トップと話したことでやりがいを持っていただいたりとか、そういう気持ちにつながるんだなというのも一つ勉強になりました。ありがとうございました。

◎日向委員長 当日、残念ながら御欠席だったんですけれども、村田委員、何か今、委員の方とか事務局の方の御発言を聞いてお感じになっていることがあれば。

◎村田委員 そうですね。せっかくこういう場に参加させていただいていろいろ勉強をさせてもらった中の成果ということで、最後市長の意見を実際に生で聞いてみたかったなというのが非常に心残りになりました。

◎渡邊副委員長 私は、これまでも何度かこういう答申等をお渡しする場に行ったことがあるのですが、今回提言書をお渡しして、1時間ぐらいろいろお話をさせていただきました。これはすごく長い時間です。普通は15分ぐらいで終わってしまいます。大体は、お渡しして少しだけ意見を、こんなことをやりましたという要約説明する機会が多いのです。今回は、いろいろと市長からお話を伺ったり、最近の御活躍の状況等を伺ったり、あるいはこちら側もいろいろとざっくばらんに意見交換をさせていただけたことは、もちろん市長の人柄もあると思いますが、とてもいい時間を過ごしたと思っております。後での議題になりますが、かなり前向きに受け取っていただいたこともよく分かりますし、本当に市長御自身も、市政の難しい課題を抱えている中で、こういったものをどう生かすかをかなり真剣に考えていただいているという点で、私自身も提言をまとめてよかったなと感じました。

◎日向委員長 私からも一言。今回、本当にこういう貴重な機会を設定していただき、小金井市の天野部長、梅原課長、あと職員の東條さん、金原さんには本当にいろいろありがとうございました。市長には熱心に聞いていただきまして、我々も、皆さんそれぞれ仕事とか抱えながら参加したかいたったのではないかと勝手ながら思っております。

当然、提言の内容もそうですけれども、我々委員一人一人が市長と直接お話をさせていただくことで、もう少し市政に深く関心を持って、広く関わっていかないといけないと、多分皆さん強く思ったのではないかと思っております。今回のこういう場の設定に感謝するとともに、我々としては、委員の任期としては一区切りつくんですけれども、その後どうなるか分かりませんが、それぞれ小金井市に住んでいる者、働いている者として小金井市政に関わっていかないといけないと、多分皆さんそういう思いを持ったのではないかと思うんです。そういう意味で市長と面会させていただいて非常にありがたかったなと思います。

それでは次第２の（２）、「提言に対する市長意見について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

◎梅原企画政策課長 それでは資料２を御覧いただきたいと思っております。「市民参加条例第２７条第１項の規定に基づく提言に対する市長の意見について」でございます。全文読み上げさせていただきます。

令和元年 7月18日

小金井市長、西岡真一郎

市民参加条例第２７条第１項の規定に基づく提言に対する市長の 意見について

令和元年 7月4日付で市民参加推進会議（以下「推進会議」という。）から提言のあった「若者の市民参加を促進するための方策について」に対し、市民参加条例第２７条第２項の規定に基づき、下記のとおり市長の意見を公表します。

記

1 参加しやすく議論しやすいワークショップの運営について。

市といたしましては、今後の市民参加の一層の促進のための手法の１つとしてワークショップの開催は有効であり、その活用が有用な場合には積極的な活用を図ってまいりたいと考えております。特に参加率の低い若年世代の参加促進のため、参加しやすく興味を持ちやすいテーマの設定、教育機関への呼びかけ等を行い、若年世代の参加を積極的に呼びかけてまいります。

また実施においては適切なグループ規模の設定、継続参加につながるような運営、服装や話し方の工夫などによる対話を意識した雰囲気構築など、ワークショップの内容や会場規模など諸条件を勘案した上で、参加及び議論のしやすい環境作りに努めてまいります。

なお、ワークショップにかかわらず、参加者の性別や年齢を考慮して実施する無作為抽出による参加者選出については、多様な市民が参加できるよう引き続き導入を進めてまいります。

2 ワークショップの内容を踏まえた広報戦略および参加成果について。

ワークショップに係る広報については、市報やホームページ等を通じて広く市民参加を呼びかけるとともに、主な対象となる層を意識したポスターやチラシ、郵便、SNS等、場合に応じた適切な広報を行うよう努めてまいります。

なお、広報の双方向性については、有効性は理解するものの、情報発信の公平性やセキュリティの確保などの観点からの検討が必要であると考えます。また、ワークショップの成果の反映については、継続的な市民参加へとつなげるため、ホームページ等での公表を行い参加者へフィードバックするとともに、ファシリテーターが継続的に参加していただけるよう考慮した広報に努めてまいります。

3 外部の団体との協働。

ワークショップの運営を外部団体と協働で行うことは、質の高い運営ノウハウの活用、飲食物の提供、テーマごとに適した手法の選択といった多様な運営など、さまざまな効果が期待でき、ワークショップ実施の一般化に大きく寄与する取り組みであり、市職員の能力向上の面からも有効であると考えます。ワークショップ実施に当たっては、財政的な面も考慮しつつ、市民活動団体、学生団体、民間企業など、多様な主体との協働や一部委託を選択肢として検討するよう努めます。

4 ワークショップの原則化。

計画策定時における市民参加手法として、ワークショップは非常に有効な手段の1つです。計画によっては他の市民参加手法が望ましいものなどもあると考えられることから、導入期間として5年を目途に、主要な計画策定時にワークショップの導入を目指すよう努めます。それに向け、計画策定時にはワークショップの実施を検討することを周知徹底するとともに、導入に向けた取り組みの進捗状況を定期的に推進会議に報告いたします。

また、市としましても職員のファシリテーションにかかわる研修は業務改善に資するものと認識し、人材育成基本方針に定める独自研修の1つとして定めているところであり、引き続き市職員のファシリテーション能力の育成に努めます。なお、同方針の改訂の際には、提言の趣旨を踏まえ検討いたします。

以上でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。我々からの提言に対しまして、市長から、今課長から説明がありましたとおりの意見が提出されました。

これを受けまして、一つはまず皆様方から御意見をいただければと思います。二つ目として、次期委員会への申し送り事項があれば、併せてここで御審議いただきたいと考えております。なお、このいただいた市長意見はこれで確定していますので、新たな意見書が出るわけではな

く、会議録の中に記録されるに留まりますので、その旨御了承いただければと思います。

それでは、最後はすっきりとした形で委員会を終了したいと考えておりますけれども、ただいまの市長意見につきまして御意見又は次期委員会への申し送り事項などあればお願いいたします。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。

◎森田委員 2番の4行目「有効性は理解するものの、情報発信の公平性やセキュリティの確保などの」というところでは、SNSで、そのときの参加者の顔の写真とかも全部、発言とかも載ることについての検討ということですね。

◎東條企画政策課主査 いえ、ここは双方向性ということで、例えばツイッターに対してお返事をするとかは現在市のツイッターではやっていないのですが、それを特定の人にしか返さないのは公平ではないことになってしまうので、必ずしもワークショップについて何か発信して、市民の方からいただいたものに返せるわけではないという意味です。

◎森田委員 なるほど。発言に対してのフィードバックということですね。委員会とかの中で発言したことについては公開はされますよね。

◎東條企画政策課主査 そうですね。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 まず意見についてのことです。おおむね好意的に、ほぼほぼ文脈を網羅して肯定的な回答を得たと思っております。過去のこの市民参加推進会議の提言において、必ずしも全ての提言に好意的ではなかったことを考えると、相当好意的なものをいただいているなど思っております。もちろん多少、例えば1の場合に「有用な場合には積極的な活用を図りたい」というと何なんだろうと思ってしまうたり、2のワークショップの広報のところ、本当は我々は市民の継続的な参加を書いており、ファシリテーターが継続的に参加していただける広報ではなかったんです。しかし、市民参加につなげるためということも書いていただいていますので、基本的には概ね我々がこのようにしていただきたいということをほぼ網羅的に書いていただいたなど考えて非常に評価できます。あとはこの提言をきっちりと実施していただきたいと思っております。

◎日向委員長 ほかにいかがですか。よろしいですか。

もう一つ、次期委員会への申し送り事項というのがあるんですけども、何か申し送りしたほうがいいこととかありますか。

ちなみに事務局に確認なんですけれども、もし分かったら教えてください。我々が前の推進会議から申し送りを受けたことは何か、分かりますか。すみません、確認お願いします。

◎岡田委員 確認いただいている最中ですが、多分前回の申し送りの中にもあったような気がするんですけども、私、第1回目から出ていて、やっている中で勘違いしていたなという部分もありました。特に進め方というのが、私の中で一種独特過ぎて難しく感じたんですね。今回これは2年間とか1年半をかけてこういうことをここまで進めると、もっと簡単に説明していただけるとありがたかったかなと。最初、ワークショップを開催するまでかど頭の中で思

ったんです。皆さんの中では御理解できていたかもしれないですけども、ほんの少しの言い回しで勘違いをしてしまう可能性があったのではないかと、私だけなのかもしれないんですけども。つまり、今回はこういうことをやっていますとかいうのが分かるかというかなと思います。書いてあること自体が私の中ではちょっと難しかったなという印象です。

◎日向委員長 言葉の言い回しですか。

◎岡田委員 そうです。使っていただいて構わないんですけども、具体的に言うところなんですとか、何回目までにはこれをしたと思うんですとか、それが最初に分かっているのと分かっていないのでは考え方も変わってくると思うので、そう思いました。

◎日向委員長 分かりました。ほかにいかがでしょうか。

◎梅原企画政策課長 前回の申し送りについては、今調べております。

◎森田委員 では、それまでの間ですが、荒城委員も同じことを言っていたのを思い出しました。こういう文章って、行政の中で使う独特の文章で、私、分からないですとか言いながら読んでいたなということ、今思い出しました。

◎岡田委員 提言であるとか、そういう言葉は私の日常の中では使っていなかったの。

◎日向委員長 大事な点だと思います。

ほかにいかがでしょうか。天野委員にお尋ねしたらいいのかな、課長でもいいんですけども、今文章がなかなか、行政に関わっていない方から見ると分かりづらいという意見があったんですけども、何かこの点についてコメント等があればお願いいたします。

◎天野委員 基本構想の考えで、高校生の意見を聴くということをやったんですけども、例えば小金井市のホームページが分かりづらい、字ばかりだとか、ああ、そうなんだなと思いました。

今岡田委員から意見をいただいて、進め方ということと、言葉の言い回しが分かりづらいという御意見をいただいたんですけども、御意見をいただくためには分かりやすい説明を初めにして、それから意見をもらう、ワークショップのやり方はまさにそれなので、もう少し意見をもらうための工夫、そういうものは我々も受けとめて考えていったほうが良いと思って御意見を伺っていました。

それから、今委員長からも御意見いただいたんですけども、やり方次第だと思っていて、諮問だとか答申という用語は使わざるを得ないけれども、それはどういうことかを冒頭説明したりとか、市民参加という言葉もなかなか議論するのも難しい話だったりするので、住んでいる人たちが、まちをよくするために意見を言う場なんだよとか、そういう分かりやすい言葉、やり方を市民参加のときには考えたほうが良いというか、そういった申し送りのみいただければありがたいと思います。

◎日向委員長 今思いついたんですけども、言葉が分かりづらいということなので、どこまで分かりやすく説明できるかは多分事務局サイドの問題なんですけれども、例えば、次期推進会議の委員の方にはぜひ一度最初にワークショップや分からないところを明確にできるような

取組みたいなものを考えてみてはどうでしょうか。一応勉強会はやりましたよね。

◎東條企画政策課主査 初回のときに、1時間ぐらい早く始めて行いました。

◎日向委員長 あれをワークショップ形式でやってみるとか。でもなかなか、最初なので皆さん緊張しているし、これは永遠の課題ということも一つあるのかもしれないですね。

◎天野委員 先ほど少しお話ししたんですけれども、第5次基本構想の長期計画審議会という会議を始めているんですけれども、その1回目は挨拶という形でやって、2回目もなかなか議論が盛り上がってこないかもしれないということを想定して、ワークショップをやってみました。やはり目の前にマイクを置いてやると発言もしにくかったりして、委員も今回無作為抽出で、若い市民の方も参加してもらっていたりするので、なかなか議論が盛り上がらないだろうという中でやってみました。

そうしたら、最初はグループごとでも沈黙が続くんですけれども、だんだん笑い声が聞こえてきたり、代表の方が発表する形をとったんですけれども、最後に長期計画審議会の副委員長からも「こういうやり方、事務局、いいのではないか」というお褒めの言葉をいただいたので、最上位計画の議論なのでかたい部分があるんですけれども、そういうものを要所要所で挟みながらやると、よりいい意見が出やすくなるなというふうに感じました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

◎渡邊副委員長 私自身はいろいろな行政の会議体に参加していますが、この市民参加推進会議は実はものすごくフリーハンドな、つまり事務局からこれをやってくださいという要望が、条例で決まっている市民参加状況のチェック以外はほぼない会議でした。何かを委員全員で考えて、今の小金井市に必要な市民参加は何か、特に市政への参加のあり方が何なのか、そこから考えてくださいと言っているの、ある意味丸投げされているところもあります。ですので、そのテーマをセットアップしていくのにすごく時間がかかってきたというのがこれまでの状況なのかなと思っています。

ただ、市長の意見交換とか、市長に提言を渡すときに岡田委員が「私、ワークショップをやりたかった」とおっしゃったように、例えば次期、この場を実験台に使っていろいろやってみるとするのはすごく良いことが起きるかもしれないと思います。

ですので、ただ分かりやすくするだけというよりは、一体これは何をやっている場なのかということの共有意識を持つことが大切で、言葉の難しさよりも、何のための場なのかということを目に考えてやっていくのが重要なのかなと思いました。

もう1点は、前期の委員長であった西尾委員長もおっしゃっていましたし、私も少し思うところがあるんですが、提言をしなければいけないとなると、とにかく新しいことを言わなければいけないと思い過ぎてしまうということがあると思います。行政の計画でも目玉を作りたいというのがどうしても出てくるんですね。個人的には必要ないこともあると思うのですが、でも、そうしないとなかなか予算がとれないということがあって、目玉をつくらうとしてしまうのですが、市民参加というのは目玉があってもうまくいくとも限らないと思うんです。む

しろ地道にこういった場で、今回市民の方にいろいろな形で、公募だったり無作為だったりで来た方が、市民参加はおもしろい、やれるかもとと思っていただけるような場にこの場をしていく。これを一つの実践とかモデルケースにして、ほかのところに使えるようなものをやるのも大事なのかなと思います。そうしないと、当たり前なんですけれども、アイデアというのは尽きてしまって、新しいアイデアをとにかく無理に考えようということに時間を使い過ぎるともったいないのではないのでしょうか。むしろ質が高い市民参加をこの場で実現していったら、どうやったらほかにも持っていけるのかということや次期考えるということでもいいのかなど、これは岡田委員の発言からちょっと思ったところです。

◎天野委員 今後、事務局の会議への参加をはやらせるとか。

◎渡邊副委員長 事務局の参加はとても良くて、新しい形に変わるのかなという思いもありました。あと、一応我々この提言をしたので、次期ではワークショップをちゃんとやっているかを見守りつつ、監視しつつ、場合によっては叱咤激励していくのも役割だと思います。もちろんほかの提言のところもありますよね。人材育成方針のところとか、そういったところも適宜やっているのかということについては、次期委員会にぜひ見ていただきたいなと思っております。

ですので、最初にワークショップだとか、何がいいのかいろいろと考えるところでもありますが、少し新しい仕掛けを、この場からスタートするのはいいのかなどと思っています。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにかがででしょうか。発言されていない委員の方、ぜひ。

◎鴨下委員 今渡邊副委員長がおっしゃったように、新しいものを作り上げなければいけないという概念は確かに取り除いてあげたほうがいいのかなど思うんですけれども、逆にサラリーマン思考というんですか、市からこれをやってほしいみたいなものがきつとあって、このレールに乗っていかないといけないのかなみたいな考え方もちょっとあって。ここで多分話が広がり過ぎたら終わらない、回数が限られているのに終わらなくなかないかなみたいな考えもあったりするんですけれども。

◎岡田委員 私も余計なこと言ったらだめなのかなとか思ったりしたので。

◎天野委員 それは申し訳ないですね。そんなつもりはないんですけれども。

◎森田委員 私は、余計なこと言わなきゃ、とってしまうけれど。

◎日向委員長 ありがとうございます。型どおりの発言からはなかなか新しいことは生まれづらいと思うんですけれども、一方で多分事務局のお立場もあると思うので、そこら辺がうまくベストミックスされて次のステップに、次期の会議では行けるといいんじゃないか。多分型どおりの発言をしていたら型どおりのことしか生まれてこないということで、確かにいろいろな発言を積極的にしてもらおうような雰囲気作りを、これは委員長としても心がけないといけないなと思いました。ありがとうございます。

◎岡田委員 あと、いつもこの場で思うんですけれども、すぐに意見とか考えというのは浮か

ばないんですね。おっしゃったことに対して感じるどころがあったりなかったりというのがいろいろあると思うんですけれども、次の委員会までに、たとえばこんなワークショップをしたとか、自分が参加したことがあるワークショップはこういうことでそれが成功したとか、そういうものを1人1つ持ってきてもらえないですかとか、ちょっと課題をいただくとやりやすいなというふうに思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。今回のプロセスで言えば、渡邊副委員長と私で大体提言の骨子を作ったんですけれども、そういうものも何か皆さんに考えてみてくださいとか、例えばそのようにしてみるとかですか。

◎岡田委員 そうではなくて、本当にすごく素晴らしいものを作っていただいて大変だっただろうと思って感謝しているんですけれども、せっかくお2人がいろいろ書いていただいたり考えていただいているんですけれども、率直な意見をうまく返せないというか、2時間という時間もありますし、数か月に1回というペースもありますし、次の段階まで、何かお題をいただくと、私はこういう経験をしてきているのでこういうものがありますよ、とかお伝えできるのではないかなと思いました。

◎渡邊副委員長 多分宿題が出てこなかったのは、いい意味では皆さんの意見を聞いてから考えようとしていて、あまり事前に今後はこれをやらせようという例を考えていないのですね。これはある意味出たところ勝負というところもありまして、この委員会の大変なところでもあります。けれども、実は日程以外ルールが一切決まっていないのです。日程だけが決まっているので、これが一番厄介なんですけれども、その中でやれることをどこまでやるかということをやっていると、結構走りながら、事務局も多分かなり苦労されながら考えていると思います。ただ、当たり前なんですけれども、自分の意見を考える時間とか、余裕を少し持ったほうができるという方も多いと思うので、そのためには何か宿題とかお題とか、ちょっとしたものを次回持ってきてくださいという形で運営したほうが、少しやりやすいかもしれません。

ただ、負担になり過ぎないかなというのも若干思うところがあります。事前に検討いただける部分が少しでも可能であれば、2、3行でも書いてくるとか本当に小さいものでもいいので、考えていただくきっかけになるのかなと思いました。この点はぜひ次回にやれるといいかなと思います。文書が出てくるのが遅いのは、私が単に作業が遅いだけなので、事務局が悪いわけではないんですけれども。ということで、確かにお題とか宿題というのはいいいかなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにはいかがですか。

では、以上で次第2(2)を終了いたします。

それでは、続きまして次第2(3)「第8期の推進会議の委員の募集について」を議題いたします。事務局、よろしく申し上げます。

◎梅原企画政策課長 それでは、資料3「第8期市民参加推進会議の構成について」を御覧いただきたいと思います。

市民参加推進会議の構成は市民参加条例第28条に定められておりまして、市民の方が5人、市民団体代表の方が3人、学識経験者2人、市の職員2人という構成になっております。資料の2、現在の委員構成にありますとおり、今期は市民5人の委員のうち3人の方を公募委員、2人の方を無作為抽出による委員ということで選出しております。無作為抽出の人数の割合については定めは特別ありませんので、例えば公募委員を2人、無作為抽出を3人というように人数割合を変えることは可能となっております。第6期の推進会議では、無作為抽出の委員を増やすことについては、若者などの参加を促す反面、参加したい人が参加できなくなるという意見もありまして、それを踏まえまして現在は無作為抽出をお2人としております。事務局といたしましては現状どおりでよろしいかと考えておりますけれども、委員の皆様の御意見をいただきたいと思っております。

それから、今後の予定につきまして簡単に説明いたします。本日が第7期の会議の最終回ではございますが、皆様の任期は令和2年1月29日まで、あと半年ほどございます。今後、おおむね1月頃までの間に次期第8期推進会議の委員の方の募集を行い、2月頃に委嘱を行う予定としております。現時点では9月より市民団体枠の公募、10月より市民公募、11月頃に市民の無作為抽出を進めるという予定を考えております。

説明は以上でございます。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。何か御質問等がございますか。よろしいですか。

特に今回事務局から説明があった点は、今の委員構成の(1)の市民、これが5人となっておりますが、この内訳を、今期は公募3人、無作為抽出2人としておりますが、次期にはどうするか御意見を伺いたいということです。何かございますか。

◎天野委員 副委員長、前回3人に増やすみたいな話もありましたよね。

◎渡邊副委員長 ありました。今天野委員から御指摘があった、無作為抽出を3人に増やすかもという話は一応あったんですね。簡単な経緯をお話ししますと、若者を増やしたいというのがもともとスタートラインで、この考えは第5期ぐらいから脈々とあるんですけども、人口比例での無作為抽出を本当にすると、相対的に数の少ない若者は絶対に来ないんですね。無作為でやるとほとんど高齢者とか、人口ボリュームが大きいのでそちらに行ってしまうので、今無作為抽出をするときに若者に加重配分をしているんですね。たしか2倍ぐらいですか。

◎東條企画政策課主査 年齢を切って行います。

◎渡邊副委員長 年齢ごとに切って無作為抽出をしているんですね。必ずそこになるみたいな形の無作為抽出をすれば、若者が必ず1人から2人ぐらい当たってくれるだろうということを考え、そうすると、この無作為抽出の枠を2ではなくて3にしたほうが若者が来やすくなるというか、強制的に来るとというのが多分正しい表現ですが、そうなるのではないかという議論があったんですね。

ただ、果たしてそれがどこまでうまくいくのかということと、年齢区分で切ってしまうとい

るとさすがにまずくないかという指摘もあり、無作為2で公募3という形に今回は落ちついたところですが。テクニカルに若者を強制的に増やそうと思えば無作為抽出で若者、こことここというように、年代を選べば必ず20代、30代が入ってきますが、やや恣意的過ぎるのと、本当に全く来なかったらどうしようという若干の問題も発生するという状況等も勘案しています。

無作為抽出がなぜあるかという、公募の場合はやはり関心がある方しか来なくて、ただ、必ずしも関心はなかったけれども、何かきっかけがあったときに来る市民がいるかもしれないというのは非常に重要で、それは日本だけではなくていろいろなところでこういう取組をされているので、私は無作為抽出はぜひ残したほうが良いと思っています。このように考えると、事務局の案のとおり3と2にして、無作為抽出はできれば若干層化をするなり、若者にかなりウェイトをかけてやるという形でやっていただくのがいいかなというのが、私の意見です。ただ、公募が来なければ、無作為抽出をそのままぱっと3人にするとかはあっていいと思っています。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。今回ちなみに、いわゆる若者の委員というのはどなたになるんですか。荒城委員と鹿子木委員と鴨下委員ですかね。

市民の内訳については、いわゆる若者をどうやってこの委員の中に入れてもらうかという観点での議論ですか。それは、今のお話を伺っていると無作為抽出の中でやるという方法もあるし、例えば公募で若者という条件をつけることはできるんですか。

◎東條企画政策課主査 できないわけではないですね。

◎日向委員長 でも、あまりしないということですか。

◎梅原企画政策課長 今までの若者になかなか参加していただきづらい状況からしますと、公募で論文を書いていただいてという形だとなかなか見込めないかなとは思っています。

◎日向委員長 ほかに御意見はありますでしょうか。今いろいろ各委員から御意見がありましたので、また次期の委員構成を具体的に事務局で検討していただく際に、参考にしていただければと思いますけれども、皆さんそれでよろしいですか。

◎渡邊副委員長 1点だけよろしいですか。前回何となく議論した気がするのですが、公募するとき「論文」という表現を使わないといけなかったのでしょうか。

◎東條企画政策課主査 論文・作文みたいなものが条例か規則の表現で書かれているのですが、多分前回の議論の中で、違う表現でもいいんじゃないかという議論をされていたと思います。

◎渡邊副委員長 エッセイぐらいの方が負荷がないでしょうか。論文というとかかなりハードルが高くて、例えば思いを書いてくださいとか、そのぐらいでもいいと思いますので、できるだけ表現をやわらかくして、400字なり800字ぐらいの文章を書いてくださいとするのがいいのかなと。論文はあまり使わないほうが良いでしょう。作文という表現はぎりぎりだと思いますけれども、重くない表現をぜひ使って募集していただければと思います。

◎日向委員長 ちなみに、どなたに伺ったらいいか分からないんですけども、今10代、20代の人は文章をどうやって作っているんですか。例えば作文というとすごくかたいものをイ

メージしてしまって、今どうやって作っているのか、そのあたりについて、渡邊副委員長、学生と接していらっしやって何か。

◎渡邊副委員長 多分スマートフォンで書いています。パソコンですらない可能性はかなりあります。

◎日向委員長 スマートフォンにしゃべって、口頭で。

◎渡邊副委員長 あります。

◎日向委員長 吹き込んだりして文章を作る人もいるんですか。

◎渡邊副委員長 学生を見ていると、しゃべるよりはぱぱっと、キーボードですらないんですね。あれを何と表現するのかよく分からないので恐縮ですが、指でぱっと入力できるシステムを使って入力をします。当然ながらスマートフォンですので、画面に表示される文字数が短いため、表現が制限されます。

ですので、そんなに長い文章は書かないとか、論理的な文章になりにくいというのがありますが、やはりスマートフォンでカジュアルに書いて、それをぱっと送る人が多いです。このあたりの投稿のしやすさみたいなもの、メールであればぎりぎりですが、ただ、最近の若い人はメールもほとんど使いません。LINEが多くて、メールがうまく書けないというのが正直なところですので、今メール応募にすることによって大分ハードルが下がっているとはいえ、実はそれですら意外にハードルになっているところがあるというのが現状です。

◎森田委員 うちも今学生2人がフィールドワークで来ていますけれども、みんな鉛筆で記録は書いているんですが、ショートメールみたいなものをぽんぽんと書くんですよ。何でここでこう切るのかなと、2行ぐらいずつで。やはりその影響なんでしょうね。

◎岡田委員 私も採用の仕事をしているので学生さんのエントリーシートに目を通すんですけども、課題があれば書くというか、それが大きな課題ではなくて、もっと自分が頑張ってきたことを市にこのように生かしたいとか。そうすると意外としっかりした意見が出てきたりする気がします。ツイートとかインスタをやっている子たちは文章が短いので、表現の仕方も全然変わってきていて、しゃべらせれば上手ですし、平成でもなく21世紀の子たちという感じなので、レポートなのか作文なのか分からないんですけども、質問形式で「小金井の好きなところは」みたいなところから始まって、Q&Aみたいな感じで出させると良いんじゃないかなと感じます。

◎日向委員長 複数の委員の方から出ましたけれども、募集の仕方は多分工夫が必要なのかもしれませんね。市のいろいろな規定があって、その規定の範囲内ということは当然あるんでしょうけれども、その中でぜひ、もし若い人をということであれば、今の若い人のそういう文章の書き方とか、応募しやすさとか、そういうことを念頭に、梓の議論も大事ですけども、ここも御検討いただければと思います。

ほかにありますか。よろしいですか。

それでは、次第2(4)「第7期市民参加推進会議のまとめ」を議題といたします。本日最

後の議題とともに、今期の最後でもあります。参加された皆様方から1言ずつ頂戴したいと思います。この会議に参加した感想でも、今後の行政への期待でも結構でございます。お1人2、3分程度をめどに、それ以上でも結構ですが、ぜひ御発言をお願いできればと思います。

◎森田委員 小金井で仕事をして、住民になって、こういった小金井の委員会に参加させていただいて20年になるんですけれども、今みたいなこういう場で、やっぱり自分が口火を切っておいたほうがいいのかなとか、すごく読んでしまうんですよね。そういう手あかのついた人は引っ込んで、若い人がどんどん出ていって委員会とか参加したほうがいいのかなと思うようになりました。

20年前、最初に参加してから本当に委員会が変わってきていて、最初のころ、私が参加したときは委員の方々がお医者様とか、大学の先生とか、弁護士の方とか、そのときについてこの間NPOを設立した私がぼつねんと座っていて、本当に場違いだなとつくづく感じたんですね。そのときはルーテル大学の学長先生だったんですが、いまだに一緒に飲みに行ったりとかするお付き合いをさせていただいたりしていますので、そういった自分自身のいろいろな視野が広がる、そういういい機会にもなるので、ぜひ若い人たちに参加をしてもらいたいなと強く思います。と言いながら、また出てきたときにはどうぞよろしく願いいたします。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

◎鴨下委員 この会議も小金井市民として市の何らかの活動に参加できる貴重な体験だったと思います。勤めている店のことをいつも頭の片隅において考えていたんですけれども、お店でも、地域に参加していこう、貢献していこうということをいつも掲げてやっているんですけれども、別にうちのお店だけでなく、ほかにもいろいろな、市内に会社もあるしチェーン店のお店もある。そういうお店や会社に働きかけていって、そこで働いている従業員を引き込むのも一つの手なのかなと思いながら、自分のお店のある自治体に何かがあれば参加したいと思いますし、自分のお店から何か社会、コミュニティにできることがあればやっていきたいと思いました。ありがとうございました。

◎本田委員 いろいろ勉強させていただきましてありがとうございます。あと、仕事の関係で休みがちで申し訳ございませんでした。私も行政職、公務員の端くれで、そちら側に座っていた経験はあるんですけれども、こちら側に座るのは初めてで、勉強になったと同時にいろいろな話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

実際、事務局で運営する場合、まとめていくのが大変だというのは重々分かっておりますので、本当にありがとうございました。実際提言がまとまって、それをどうやっていくのかというのが多分一番大変だと思います。お金の問題とか人の問題とか、いろいろ付き合いとかもありますし、こういうものをやるといろいろなところからハレーションが出てきますので、そんなものも大変だとは思いますが、ぜひ、できるところからでいいと思うので、一つでも二つでも形になっていけばいいなと思います。なかなか御協力できることはないんですけれども、何かありましたらまた協力できればと思います。ありがとうございました。

◎**村田委員** こういう行政の活動への参加というのは初めてで、民間から来た人間にとってこの会議体の狙いは何だろうというのを探りながら最初入ったりして、なかなか慣れなくて、自分の意見も言えなかったこともあるなど、今思い返すとちょっとあります。

ただ、この会議体を通じて、ほかにもいろいろ行政に対して言える機会があることを初めて知ったし、この経験を生かして、もし次の機会があればそういったところにもぜひ参加してみたいなど、非常に勉強になった会に参加させていただきました。ありがとうございました。

◎**岡田委員** 3年前に息子が中学に入学するときに大阪から小金井市に引っ越してきました、息子も小金井市の中学校ではないですし、主人も働き先も小金井市ではありませんし、私はただ住んでいるだけということで、本当に何も知らない場所からのスタートだったんですけども、こういう機会をいただいて、主人に「私、小金井市の推進委員をするの」と言ったときに、「君が？」みたいな感じだったんですけども、すごく勉強になりましたし、楽しかったです。私の中で市長さんがとても近い存在に感じたというのもすごく財産になったなというか、ありがたいことだったなと思います。

私、先ほども言ったとおり、採用の仕事をしていてエントリーシートをよく見るんですけども、学生時代頑張ってきたこととか書かせると、大体アルバイト、私の中ではペケなんですけれども、そういうところに本当は市の推進委員をやってきたとか、そういうことを一言二言書いてくれる子が今後どの市でもいてくれたらプラス5点とか、私の中では本当にそういう気持ちでいます。

あと、本当に私事ですけれども、実は6年前に病気になって、病気と仕事と、家族とプラスこういうことに携われたというのはすごく自分の経験の中でもよかったなと思っています。小金井市の方やこういった年齢の幅の広い方々と仕事以外で話すことはまずないですし、ほとんど子どもも関係ない年齢になってしまいましたので、市役所に来る理由もないですし、本当にいい経験をさせていただけたなと思っています。ありがとうございました。

◎**天野委員** 皆さん、ありがとうございました。本日もいろいろないい意見をいただきまして、これをどう消化していこうかなと思って今考えているところであります。

今の意見も本当にありがたく、この市民参加推進会議、私が初めて参加したのが平成21年で、企画政策課長をやっていたときで、10年ぐらい前ですかね。当時この市民参加推進会議というのと駅前庁舎問題というのがあったところで、その関係の市民参加というのをやっていたんですね。どちらも非常に真剣な市民参加でございまして、こんな皆さんと和気あいあいとお話しできる状況ではないという、そういう市民参加を経験してきて今考えますと、もっとハードルを下げて、本音で、車座で言いたいことを言えるような市民参加を目指したいなと思っています。だから森田委員に教えてもらったように、ワークショップを最初に温めるじゃないけれども、意見を出しやすくするみたいな手法として取り組むのは、本当に良いなと思っています。そしてワークショップのやり方もいろいろあるなども最近思っています、この間見たのは割とファシリテーターの方が誘導してしまう時間が長かったり、もっとコンパクトに短くし

て、どんどんやりとりしていたり、やり方についても、今後いろいろな皆さんの意見を伺いながら精度を高めていけたらなと思います。

また、先ほど副委員長からこの場を実験場にすればいいんじゃないかというお言葉もいただいたので、今後も様々な工夫をしていければと思います。ありがとうございました。

◎日向委員長 事務局、いかがですか。

◎梅原企画政策課長 今日もずっと皆さんの御意見とか感想とかを聴かせていただいたところで、まず一つ我々が反省し、次につなげていかなければいけないと思うのは、今何を話しているんだろうとか、どんな意見を言ったらいいんだろうかということが見えにくい場面も多かったということもありまして、その辺が特にこの市民参加推進会議は、渡邊副委員長からもありましたけれども、最初はテーマ選びといったところの難しさもある会議だと思っておりまして、特にそういうところについてうまく進めながら、皆さんが話しやすい状況を作っていくなと思います。

逆に会議の進行に協力していただいて、いろいろ気を遣っていただいているようなところもあるということですので、次はそういったことを気にせず、中身の意見をどんどん言ってもらえるような形を作っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

◎東條企画政策課主査 私は去年の4月に人事異動で、途中から参加させていただいたような形で、今3回目です。これは一体何をやっている審議会なんだろうというところから入ったのですが、1年3、4か月、至らない事務局でいろいろ御迷惑もおかけしたと思います。会議録が遅かったり、資料が当日配付だったりと本当に申し訳なかったなと思っております。先ほどの宿題をというお話もあったんですけども、それも例えばその資料を1週間前に送れたりしていれば、ある程度見る時間もあったりですとか、そのあたりは本当に反省材料だなと思っております。次期には可能であれば事前配付を心掛けたいと思っておりますが、事務的に追いつくかということはさておき、そんなように感じたところです。

また、私も審議会の経験がそんなにあるわけではないんですけども、この輪の中に入れていただくという、なかなか貴重な経験をさせていただきまして、非常にいい経験をさせていただいたのと勉強にもなったなと思ってます。ワークショップについてもほとんどやったことがなく、いわゆる研修みたいな形だったりとか、民間から来ているので、民間で何かやっていたというはあるんですけども、ワークショップを運営するみたいなことも全くやったこともなかったので、ここ最近、いろいろほかの業務でやる機会があって、ほかの課に行ったりしてもいろいろ使える貴重な経験をさせていただいたなと思ってます。1年ちょっとでしたが、ありがとうございました。

◎金原企画政策課主任 私もまだ2回目なので、この立場に慣れていないところなんですけれども、ほかのこういう会議体に比べて本当に皆さんが楽しそうに話している、この雰囲気は独特というか、あまりない会議だなというのをすごく感じました。皆さんにも楽しく思っただけのことがまた新しい市民参加につながっていくんだろうなというのを肌で感じたところで

す。

やらなければいけないことがこれだけ決まっていなくて、こういう計画を作らなければいけないというものが無い会議体で、これだけいい雰囲気を作れる場というのは聞いたことがないので、私もまた担当できるのであれば、この場で学ばせていただきながら、皆さんの意見を肝に銘じて次に当たりたいと思います。ありがとうございました。

◎渡邊副委員長 私も前期から引き続いて今回副委員長をさせていただいて、4年間ぐらい関わらせていただきました。確かこの第6期の冒頭でもお話ししたしましたが、市民参加というのは難しいなと思っています。小金井市の市民参加は、単に市民が市民活動をするのではなくて、市政に関わるという点がかなりハードルが高いことであると思っています。

そういうことをどう議論するかというのは難しいなと思うのですが、今日のお話を聞いてもすごく思うのは、もちろん市民側も変わる必要がありますけれども、市がどう変わるかというのが今回の場合特に重要です。私もいろいろな会議体に参加したことがありますが、会議の場の雰囲気自体が全然違うんですね。事務局がある意味これだけ自由にしゃべることができるのはかなり珍しいことなんです。それがなぜ可能かということ、多分この場でまとめようとしているものが利害調整ではないからだと思うのです。利害調整とかをしようとする、どうしてもお互いが対立せざるを得ないんですけれども、この場はどうすれば市民が市政に関わるような環境とか雰囲気が作れるかを考える会議体です。かなり貴重な会議体であり、おそらくほかの自治体にもこういうものはあまりないと思うのです。市民参加を推進する会議があってもこういう雰囲気はなかなかないので、こういう雰囲気をすごく大事にしながら、小金井市は今後何ができるかを市民と一緒に考えていけるというのはすごく重要ですし、市民の方がこれだけ熱心に参加する場は本当に珍しいので、こういった場を大事にしていくことが今後の課題なのかなと思っています。むしろそういうような皆さんの参加の姿勢とかを見るのが私も勉強になりますので、本当にいい経験だったと思っています。ありがとうございました。

◎日向委員長 では私から。本当に皆さん1年半、長いようで短かったと思いますけれども、御協力いただきましてありがとうございました。私もこういう仕事、大体委員長って学識経験者の人がやるんですけれども、私は大学の教員ではない、いわゆる行政職なので小金井市の事務局の方と同じ立場なんですけれども、最初はこういう役ができるかどうか自分も不安な中でやってきたんですけれども、本当に皆様方に温かく支えていただいて、今日ここまで来ることができました。ありがとうございました。

やってみて思ったことは、例えば、事務局は最初は後ろにいたんですね。それで入ってもらうことを思いついてやってみたんですけれども、行政というか市政というのは、いわゆる事務局である小金井市の職員さんが担うという感じでやっているんですけれども、多分これからの時代は、それぞれの立場はあるけれども、市民も担っていくし、行政職員である小金井市の職員の方も担っていくという、そういう視点が大事になってくるんじゃないかということを感じていたんですね。多分職員の方は部長さんがいて、課長さんがいて、発言を躊躇したり

制約されたりすることもあるかもしれないんですけども、これからの時代は本当に一人一人がしっかりと自分の見識を持って発言して行って、みんなでいいものを作っていくことが大事になってくる時代じゃないかと思っています。委員が事務局に物を言って、事務局がそれを受けとめるのが今までのスタイルだったと思うんですけども、これからはそういうスタイルではなくて、新しいスタイルを模索していくべきなのかなと、個人的には感じました。

ですから、若い人に入ってもらうことも大事ですけども、森田委員のような経験豊富な人にもぜひ入っていただいて、いろいろな人が入っている中で、皆が対等で、しかもそれは敵対する関係ではなくて、同じ小金井市に関わる者として小金井市を良くしていくという、多分そういう雰囲気作りを委員長はしていかないといけないのではないかと感じています。次に誰が委員長になれるか分からないんですけども、委員長にはぜひそういう人になってもらいたいなと思いますし、委員の方にはそういうつもりで、事務局に対して物を言うのではなくて、一つのテーマに対して自分の立場としてどうやって関わるのか、事務局の人もちよっと引くのではなくて、自分の立場として、例えば今回だったら若者の市民参加ということにどうやって関われるのか、そのように発言していくとステップアップしていくんじゃないかと、委員長の立場をしながら感じていました。

私も次にどうなるか分かりませんが、何か小金井市のために力になれることがあれば、やっていきたいと。それがここの委員、委員長をさせていただいた務めだと思うし、多分皆さんもそう思っているんじゃないかと思うんです。

ということで、まともにはつきませんが、いろいろな制約がある中で、次はぜひ新しいことにどんどんチャレンジして行ってもらいたい。それは別に皆さんを責めるというわけではなくて、いいものを作っていくために変えていく、ただ、できないものはできないということでもいいんですけども、そういう新しいことにチャレンジしてもらいたいなということで締めさせていただきたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

◎森田委員 この推進会議で、先ほどの鴨下委員や岡田委員の発言を聴いて、そういうものもいいかもしれないなと思いました。

◎梅原企画政策課長 実現できるかどうか分かりませんが、また行政的な言い方になってしまいますが、検討してみたいと思います。

◎森田委員 ぜひよろしくお願いします。

◎梅原企画政策課長 貴重な御意見ありがとうございます。

◎日向委員長 今の森田委員の言葉を受けとめてじゃないんですけども、今回提言のスタイルはこういうようないわゆる行政文書的な内容でしたけれども、これも、どこまで変えられるかというのはあると思うんですけども、そこに一人一人の感想を入れてみるとか、そういうこともやってみてもいいのかもしれないですね。今の話も含めて、可能な範囲で御検討いただけるとありがたいです。

では、以上で本日予定の議事については全て終了いたしました。また1年半にわたり熱心に御議論いただき、ありがとうございました。締め言葉というのは今申し上げたんですけれども、あえてもう一つ言うとしたら、多分1年半前の我々と今の我々は大分違ってきている。最初はみんな固かったんですけれども、今日は皆さん積極的に発言していただいたかなと思うんです。ということは、皆さん、この会議に対して非常に好感を持って務めていただいたのかなと思いますので、ぜひこの雰囲気は次期にもつなげてほしいなと思います。

以上で本日の会議は終了いたします。皆様、お疲れさまでした。

(午後7時25分閉会)